

表 3540 2015年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別 (腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0~	2.0~	3.0~	4.0~	5.0~	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	1,952 (80.2)	295 (12.1)	102 (4.2)	34 (1.4)	21 (0.9)	29 (1.2)	2,433 (100.0)	1,645	4,078	0.37	1.02
腹膜透析 (APD) (%)	1,122 (79.9)	156 (11.1)	54 (3.8)	33 (2.3)	17 (1.2)	23 (1.6)	1,405 (100.0)	888	2,293	0.45	1.29
腹膜透析 (CCPD) (%)	372 (77.3)	74 (15.4)	13 (2.7)	9 (1.9)	6 (1.2)	7 (1.5)	481 (100.0)	252	733	0.43	1.13
合計 (%)	3,446 (79.8)	525 (12.2)	169 (3.9)	76 (1.8)	44 (1.0)	59 (1.4)	4,319 (100.0)	2,785	7,104	0.40	1.13
記載なし (%)											
総計 (%)	3,446 (79.8)	525 (12.2)	169 (3.9)	76 (1.8)	44 (1.0)	59 (1.4)	4,319 (100.0)	2,785	7,104	0.40	1.13

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2015年調査